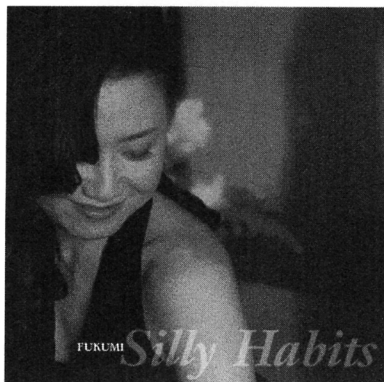




- ①ホワイ・シュッド・ユー・クライ ②アイ・ウィッシュ ③バイアオ・カスリン ④ルズ・ドウ・ソル ⑤クライ・ミー・ア・リバー ⑥ワッチ・ユー・スリーピン ⑦シング・ミー・ソフトラリー・オブ・ザ・ブルース ⑧エスターテ ⑨ユー・ドント・ノウ・ホワット・ラブ・イズ ⑩ルー・デイト ⑪センド・イン・ザ・クラウン

●ステファニー・シュレジンガー(vo) ボブ・デゲン(p) ペドロ・タグリアニ(acoustic-g) ウルフガンク・ラッカーシュミット(vib, marimba) イスラ・エッキンガー(b) ジャロッド・カグウィン(ds) 2001年11月録音

●ミュージック(Enja) MZCQ-100 ⑤¥2,625 9月24日発売



- ①ハウ・インセンシティブ ②クレージー・ヒー・コールズ・ミー ③アイ・ゲット・ア・キック・アウト・オブ・ユー ④コートにすみれを ⑤アイ・デイドント・ノウ・ホワット・タイム・イット・ワズ ⑥アイ・フォール・イン・ラブ・トゥー・イーजीリー ⑦キャンディ ⑧ガール・トーク ⑨サンクス・フォー・ザ・メモリー ⑩シリィ・ハビッツ ⑪ザ・ベリー・ソート・オブ・ユー

●FUKUMI(vo) デイブ・リッケンバーグ(ts) リック・デララッタ(p) ポール・メイヤーズ(g) ハービー・S(b) ビクター・ジョーンズ(ds) 2001年10月30, 31日, 11月3, 4日NYで録音

●ヴィヴィッドサウンド(Stella Records) VSCD-2204 ⑤¥3,000 10月10日発売

新鮮で澄んだ歌声が魅力のジャズ・シンガーがデビュー

エンヤ・レーベルから発表される作品がもっている透明感は、この新進気鋭のジャズ・シンガーを紹介するデビュー・アルバムでも変わることはなかった。彼女の名は、ステファニー・シュレジンガー、25歳。02年にドイツ南部、ニュルンベルクの音大を卒業したばかりで、発声、演技、ピアノを修めたその成果を澄んだ歌声に託し、今作にあますところなく収めた。もっとも歌は12歳からクラシック畑で学び続けてきたというから、彼女の伸びる声に驚くことはないのかもしれない(5曲に参加したラッカーシュミットも透明度をあげるのに、貢献している)。特に高音域での美しさが特徴的な透明な歌声と、正確なストーリーの把握力が、ステファニーの歌声の特徴だ。取められた楽曲はスタンダードと、④カエターノ・ペローゾ曲(ブラジル出身のペドロ・タグリアニのギターとのデュオで歌った)に有名曲⑧などのブラジリアン・フレイバー、加えてアルコのベースや室内楽的なサウンドをバックに清らかに歌う⑩までと広く、今後の彼女の可能性の広さを感じさせる。私は⑩⑪(ボブ・デゲンのピアノとのデュオ)に心をつかまれた。ブルースの⑦などの表現にはまだ若さを感じるが、心があり、かえってオペラチックに盛り上げる⑤の唱法の方が聴く人によっては難しいかもしれない。ともあれ、ステファニーの登場をことほぎ、どこまでも新鮮な彼女の歌声を歓迎したい。(中川ヨウ)

米レーベルからデビューを果たした新人ボーカリスト

FUKUMI(片山ふくみ)のデビュー作品。片山は、愛知県出身で、武蔵野音楽大学ピアノ科で学ぶ。在学中より、ボーカル活動を開始した。上野尊子に師事する。NYにも何度も足を運び、ボーカリストとしての研鑽を積んできた。その実力が認められ、米国ステラ・レコードより、白羽の矢が立った。片山はステラ日本人初のアーティストに選出され、本作は昨年10月、米国で先行発売された。録音は、2001年10月。まだまだテロ事件の余波がNYの街に色濃く残っていた厳しい時期だったが、期待に応える作品を作り上げた。

片山の歌声は、とても魅力的だ。原曲の持つメロディの美しさ、歌詞の意味するストーリーが、聞き手の心に自然に深く伝わってくる。②がそれを象徴している。自然な感じで歌い出し、そのままストレートにしっとり情感を静かに込めていく。片山のナチュラルなピュアな良さに、惹かれる。心が癒されるような感覚になり、心地好い。③は一転してアップ・テンポ。パンチが効いた歌はリズムに乗って、よくスイングする。リックのピアノ・ソロも気持ちいい。片山は、チェット・ベイカーが好きで⑥を選んだ。リックの繊細な音の後、語りかけてくるようにウォームで知的な表現力が素晴らしい。⑦は片山とリックの甘いデュエット。リックは歌もうまい。⑧はハービーとのデュオ。二人だけだが、何と表現の豊かなこと！片山の今後の活躍が楽しみである。(高木信哉)